

ニュースウィーク日本版
Newsweek[®]

ニュースウィーク日本版 2024年3月5日発売号
特集タイトル：『いま知っておくべき 金・銀・銅』（仮）

お問合せ先

株式会社CCCメディアハウス メディア・プロモーション局 広告部

〒141-8205 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア

Ver. 1.2
2023/12/13

「ニューズウィーク日本版」と「投資・資産運用」

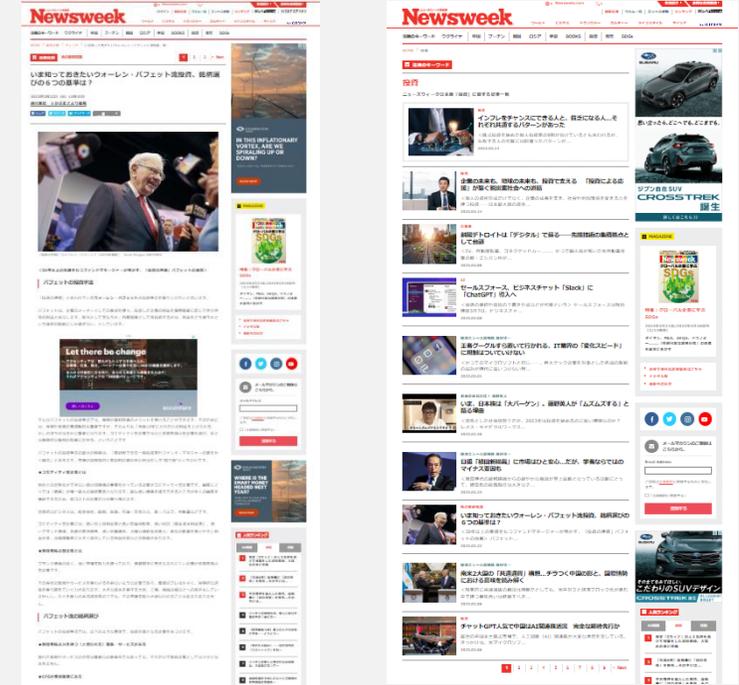
ニューズウィーク日本版は、様々な金融・経済・投資のトピックを取り上げて参りました。昨今では、円安・インフレ・老後2000万円問題など、お金に纏わる関心がかつてないほど、読者・ユーザーにとって身近なトピックに高まり、投資・資産形成についての情報を求める声が多く編集部が届いています。しかし、失われた30年と言われる日本社会では、デフレマインドが染みつき「貯金=安全」という固定観念が根深く、「投資=悪・ギャンブル」と考える方も多くいるのも実情です。ニューズウィーク日本版は、そういった悩みや不安・課題に対し、自分にあった資産形成のやり方を、分かりやすく紐解き、日々多くのコンテンツを発信しています。

広告主様の商材・サービスをニューズウィーク日本版（本誌・WEB）で紹介し、よりエンゲージメントの高い読者・ユーザーに訴求できればと思っております。是非ご検討の程、宜しくお願い申し上げます。

本誌カバー特集



WEBサイト



<https://www.newsweekjapan.jp/tagsearch/%E6%8A%95%E8%B3%87>

特集概要：『いま知っておくべき 金・銀・銅』（仮）（2024年3月5日発売号）

不透明な社会情勢や経済不安のなか、安定資産としての金価格が史上最高値に高騰しているのはよく報道されている。だが、注目すべきは金だけではない。銀の価格は貴金属の中でトップの上昇率で高騰（ドル安が関係あるらしい）。さらに、IT化や脱炭素化による需要の高まりで、銅の価格も急上昇し、世界中で争奪戦が起こっている。資産・資源・原材料・（環境）などさまざまな側面から見た金・銀・銅の現在と今後について特集する。

カバー特集では、下記4つテーマで構成を組む予定です。

① 資産として価格が高騰している背景

② 資産としての特徴

③ 活況する注目の市場

④ 若年層の投資ビギナーが
投資する資産運用術

⑤ 中～上級者が投資する
資産運用術

特集概要：『いま知っておくべき 金・銀・銅』（仮）（2024年3月5日発売号）

- カバー特集は、以下5つテーマで構成する予定です。

① 資産として価格が高騰している背景

- ・ 資産として、資源として、金・銀・銅それぞれの価格が史上最高レベルに高騰している背景と今後の見込み
- ・ 高騰を受けての世界の争奪戦
- ・ 貴金属への投資は危険？
- ・ 一目瞭然の貴金属価格の推移チャート

② 資産としての特徴

- ・ 金 資産としての金の特徴は？投資手段は？金保有のメリット、デメリット
- ・ 銀 ドル相場とエネルギー価格と銀高騰の関係
- ・ 銅 再生可能エネルギーで急上昇する銅需要

③ 活況する注目の市場

金・銀・銅チップシート

- ・ 活況化する「都市鉱山」（中古品買取のリサイクル市場のこと）
- ・ 各国の銅産地獲得競争と中国（ザンビアやコンゴ民主共和国などが有望産地）
- ・ 銅コスト削減（銅を削減した電子基板づくり、銅からアルミへの変換）
- ・ 世界も日本も砂金掘りブーム

※ 編集内容は変更になる可能性があります。

特集概要：『いま知っておくべき 金・銀・銅』（仮）（2024年3月5日発売号）

- カバー特集は、以下5つテーマで構成する予定です。



④ 若年層の投資ビギナーが投資する資産運用術

30-40代の投資をこれから始める人には、長期の積み立て投資が有利である理由を解説する。資産形成に長い時間をかけられ、余剰資金がそれほど多くない場合は、相場の上下による心理的な負担を考えても小額を継続的に超優良株に投資し続けるのがオススメ。さらに、安全資産と言われる「金」はインフレやデフレにもあまり影響を受けないと言われている。投資信託やETFなどを活用すれば少額投資ができる。また、2024年1月から導入される新NISAを活用することもできる。株式・債券のポートフォリオに金への投資を加えることで分散投資にも活用できる。

⑤ 中～上級者が投資する資産運用術

ある程度の資産を保有しているものの、将来に漠然とした不安を感じている層に向け、最適な資産形成のバランスを考える内容。NISAや投資信託でコモディティ投資するだけでは物足りない感じる方には、先物取引の選択しがあることを説明。現在、ネット証券会社も先物取引のサービスを提供している。長所・短所（リスク）も説明しつつ、新たな投資の選択しを紹介。

本企画特別広告パッケージのご案内 - 展開フレーム

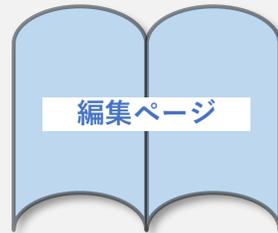
本企画では、本誌編集タイアップとWEBタイアップの組み合わせパッケージについて、特別料金でご案内致します。

金融機関の広告主様には、本誌の特集と連動した内容で記事を作成致します。本誌のタイアップ記事をWEBに転載するだけでなく、10,000PVを保証するお得なメニューになります。是非ともご検討の程、宜しくお願い申し上げます。

本誌での展開

3月5日発売号

『いま知っておくべき 金・銀・銅』 (仮)



編集ページ

特集概要：『いま知っておくべき 金・銀・銅』 (仮) (2024年3月5日発売号)

- ① 資産として価格が高騰している背景
- ② 資産としての特徴
- ③ 活況する注目の市場
- ④ 若年層の投資ビギナーが投資する資産運用術
- ⑤ 中～上級者が投資する資産運用術

特集内容と連動した編集タイアップの展開

広告主様の商材・サービスを紹介し、よりエンゲージメントの高い読者・ユーザーに訴求。



タイアップ記事
4C2PTU

WEB転載

WEBでの展開

3月5日公開



誘導

SNS投稿



各1回

誘導

保証PV：10,000PV



※4C2P以上での展開をお望みの場合は個別にご相談ください。

※著名人起用、遠方撮影などの場合には、別途制作費をお見積りいたします。

※申込締切：1月12日 (金)

本企画特別広告パッケージのご案内 - 料金のご説明

本誌編集タイアップを実施し、同記事をWEBへ転載致します。また、WEBタイアップでは、10,000PVを保証致します。
 通常【G3,900,000円（媒体費）+N650,000円（制作費）】相当のメニューを、G2,500,000円（N2,000,000円）にてご案内致します。
 是非ともご検討の程、宜しくお願い申し上げます。

本誌での展開

3月5日発売号

『いま知っておくべき
金・銀・銅』（仮）



**タイアップ記事
4C2PTU**

WEB転載

- スペース：4C2Pタイアップ
- 料金：
 - ・掲載料：G2,400,000円
 - ・制作費：N600,000円

WEBでの展開

3月5日公開



誘導

SNS投稿



各1回

- メニュー名：
Tie up ネイティブニュースプラン
(トライアルプラン)
- 料金：
 - ・G1,500,000円
 - ・取材費：N50,000円



誘導

通常総額：本誌4C2Pタイアップ+WEBタイアップ
 ⇒【G3,900,000円（媒体費）+N650,000円（制作費）】
 相当のパッケージ

企画料金

実施料金: G2,500,000円 (N2,000,000円)

本企画特別広告パッケージ- 進行スケジュール

本メニューを実施する場合、以下の様なスケジュールを想定しています。

タイアップ申込締切：1月12日（金）

2024/1/1	月	
2024/1/2	火	
2024/1/3	水	
2024/1/4	木	
2024/1/5	金	
2024/1/6	土	
2024/1/7	日	
2024/1/8	月	
2024/1/9	火	
2024/1/10	水	
2024/1/11	木	
2024/1/12	金	お申込み締切
2024/1/13	土	
2024/1/14	日	
2024/1/15	月	<p>オリエン候補日： 1/15（月）～1/26（金）ごろ</p>
2024/1/16	火	
2024/1/17	水	
2024/1/18	木	
2024/1/19	金	
2024/1/20	土	
2024/1/21	日	
2024/1/22	月	
2024/1/23	火	
2024/1/24	水	
2024/1/25	木	
2024/1/26	金	

2024/1/27	土	
2024/1/28	日	
2024/1/29	月	ラフ構成案・質問案 提出
2024/1/30	火	
2024/1/31	水	ラフ構成案・質問案 御戻し
2024/2/1	木	
2024/2/2	金	
2024/2/3	土	
2024/2/4	日	
2024/2/5	月	
2024/2/6	火	
2024/2/7	水	
2024/2/8	木	初稿PDF提出
2024/2/9	金	
2024/2/10	土	
2024/2/11	日	
2024/2/12	月	
2024/2/13	火	初稿PDFお戻し
2024/2/14	水	
2024/2/15	木	再校正PDF提出
2024/2/16	金	
2024/2/17	土	
2024/2/18	日	
2024/2/19	月	再校PDFお戻し→校了
2024/2/20	火	校了
2024/2/21	水	
2024/2/22	木	

2024/2/23	金	
2024/2/24	土	
2024/2/25	日	
2024/2/26	月	
2024/2/27	火	
2024/2/28	水	
2024/2/29	木	
2024/3/1	金	
2024/3/2	土	
2024/3/3	日	
2024/3/4	月	
2024/3/5	火	本誌発売
2024/3/6	水	
2024/3/7	木	
2024/3/8	金	

※ ニュースウィーク日本版のタイアップ進行では、色校正はお出ししておりませんので、予めご了承ください。

WEBタイアップ-エンゲージメント強化プラン

こちらのメニューは2枠までのご案内になります。
※決定優先でのご案内。



本誌3/5発売号では、資産運用（コモディティ投資）の特集が組まれるため、WEB上でも資産運用関連（コモディティ投資）の記事が複数掲載される予定です。WEBサイト内で、「投資」の関連記事を集めた「特集ページ」を作成し、また、3/15発売号の本誌のスピノフ記事の文末に、タイアップの誘導枠を設けます。この施策を通してエンゲージメントの高いユーザーに、広告主の商品・サービスをリーチさせることが期待できます。

編集コンテンツ

本誌の発売後に、ニュースウィーク日本版のWEBサイト上に本誌で紹介された資産運用関連（コモディティ投資）のスピノフ記事が多くアップされます。

本誌3/5発売号



本誌
編集記事

WEB用にスピノフ記事作成



スピノフ
編集記事

格納

編集スピノフ記事は、「投資」特集ページに格納されます。

3/15発売号の本誌スピノフ記事

特集ページ



WEBタイアップ 誘導枠

タイアップ記事



編集記事（記事中）



誘導

誘導

SNS投稿



各1回

スピノフ記事を閲覧

投資関連の特集ページを作成。トップの位置にタイアップの誘導枠を設置します。

※申込締切：1月12日（金）

3/15発売号の本誌スピノフ記事の文末に、タイアップ記事のリンクを付けます。

WEBタイアップ- エンゲージメント強化プラン- 条件と料金のご説明

WEBタイアップ単体でお申込みいただいた広告主様限定で本メニューをご案内致します。
ご案内できる枠は2枠になりますため、決定優先でのご案内になります。

対象となるWEBタイアップメニュー

- ・ネイティブニュースプラン（トライアルプラン）
【料金】 G1,500,000円（N1,200,000円）
- ・ネイティブニュースプラン（誘導強化型）
【料金】 G2,000,000円（N1,600,000円）

※詳しくは媒体資料をご参照ください。

誘導期間

誘導期間は、公開開始日から4週間。

誘導元

- ・WEB内 特集ページ内での誘導
- ・本誌スピンオフ記事内からの誘導

枠数

ご案内できる広告枠は、2枠になります。
※決定優先でのご案内になるため、予めご了承ください。

WEBタイアップ-エンゲージメント強化プラン-進行スケジュール

本メニューを実施する場合、以下の様なスケジュールを想定しています。

※申込締切：1月19日（金）

※本誌の発売日3/5（火）の公開を想定する場合（希望に応じてスケジュールを調整致します。）

2024/1/1	月	
2024/1/2	火	
2024/1/3	水	
2024/1/4	木	
2024/1/5	金	
2024/1/6	土	
2024/1/7	日	
2024/1/8	月	
2024/1/9	火	
2024/1/10	水	
2024/1/11	木	
2024/1/12	金	
2024/1/13	土	
2024/1/14	日	
2024/1/15	月	
2024/1/16	火	
2024/1/17	水	
2024/1/18	木	
2024/1/19	金	お申込み締切
2024/1/20	土	
2024/1/21	日	
2024/1/22	月	オリエン候補日： 1/22（月）～1/26（金）ごろ
2024/1/23	火	
2024/1/24	水	
2024/1/25	木	
2024/1/26	金	
2024/1/27	土	
2024/1/28	日	

2024/1/29	月	ラフ構成案・質問案 提出
2024/1/30	火	
2024/1/31	水	ラフ構成案・質問案 御戻し
2024/2/1	木	
2024/2/2	金	
2024/2/3	土	
2024/2/4	日	
2024/2/5	月	取材候補日： 2/5（月）～2/16（金）ごろ
2024/2/6	火	
2024/2/7	水	
2024/2/8	木	
2024/2/9	金	
2024/2/10	土	
2024/2/11	日	
2024/2/12	月	
2024/2/13	火	
2024/2/14	水	
2024/2/15	木	
2024/2/16	金	
2024/2/17	土	
2024/2/18	日	
2024/2/19	月	
2024/2/20	火	初稿（Word）提出
2024/2/21	水	
2024/2/22	木	初稿（Word）お戻し

2024/2/23	金	
2024/2/24	土	
2024/2/25	日	
2024/2/26	月	
2024/2/27	火	
2024/2/28	水	WEBタイアッププレビュー提出
2024/2/29	木	
2024/3/1	金	WEBタイアップ プレビューお戻し→校了
2024/3/2	土	
2024/3/3	日	
2024/3/4	月	
2024/3/5	火	WEB公開
2024/3/6	水	
2024/3/7	木	
2024/3/8	金	

Special Advertising Section

「商品の拡充」については、具体的にどういった内容なのか。池澤「三菱UFJ銀行では来年の新NISA制度の開始に合わせて、今年12月中旬に低コストシンプルな商品性が人気の「eMAXIS Slim」シリーズをつんだNISAの商品ラインアップを追加予定です。一つは「銀行」としてすでに口座を持っている方も多い三菱UFJ銀行は、調査会社「D・ハリスNISA顧客満足度」(銀行(全国系、ネット)部門)でも取引手数料や商品数、情報や実績

各種ニーズに対応、MUFGのNISA口座

- 三菱UFJ銀行**
顧客満足度 No.1、親しみと信頼のいつもの口座
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券**
幅広い商品ラインアップと専門家のアドバイス
- auカブコム証券**
スマホでお得にスピーディに
- 三菱UFJ信託銀行**
資産運用から、相続、不動産までまとめて相談

資産形成をサポートします。ネット証券会社のauカブコム証券は4社の中で最も取扱商品が多く、投資信託の購入手数料は全て無料かつスマホで手軽に取引することが可能です。一方、築いた資産を次の世代引き渡すこと、また見据えたい方には、三菱UFJ信託銀行がお客様の思いに寄り添います。今後は、各社「一人ひとりの利用状況やライフイベントに合わせた個々のアドバイスを提供することで、MUFGに取引するデメリットもなくなるよう金融客体験を目指します。様々な形態の金融機関が持つグループならではのメリットだと感じるか、ほかにはどんな強みが挙げられるか。池澤「MUFGは全世界で約200の国・地域に展開し、約18万人の社員が働くグローバル金融グループです。再銀最大級の預金・貸出残高と口座開設数に加え、これまで積み上げてきた信頼・信用があります。こうした信頼・信用をよりものにするためには、従業員や自々の行動が大切です。MUFGでは「世界が進むチカラになる」をパーパスに掲げています。従業員一人ひとりが、パーパスと向き合い、どうすればお客様や未来の世代、社会のお役に立つことができるか、真剣に考え、行動に移っています。MUFGは社会的使命として資産形成の促進に貢献します。また、長期的な人生のパートナーとして選ばれ続け



MUFG代表取締役社長
グループCEO
池澤 宏規
1966年東京大学大学院理学系
修士課程を修了後、三菱銀行(現
三菱UFJ銀行)に入社。2010年に
三菱UFJ銀行・MUFG銀行後
援に就任し、以降、本誌企業担
当。米州副総務部長を歴任。その
後、システム・デジタル領域でも
要職を歴任しグループのDXを
推進。2020年より現職。

写真:TOBI 文通・写真 J.D. ノーバ 監査 (株)の詳細は [jpawards.com/awards](https://www.jpawards.com/awards) をご覧ください。 ©2023年の調査
問い合わせ先 三菱UFJフィナンシャル・グループ <https://www.muflg.jp/index.html>



三菱UFJフィナンシャル・グループ 幅広いニーズに応える新NISAの活用提案 MUFGが果たす社会的使命

「来年から始まる新NISA制度の普及に貢献することは、金融機関の社会的使命」
社会の変化を鋭く捉え、顧客の資産形成に寄り添うMUFGの強みを池澤宏規CEOが語る

日本の個人金融資産約2000兆円のうち、運用数は現金とシフトされるため、増田政権が掲げるのが「資産所得倍増計画」だ。そのための目玉政策の一つとして来年から、投資によって得た利益・配当金を非課税にするNISA(少額投資非課税制度)の年間投資枠を拡大し、非課税期間も永久化するなど、制度を抜本的に拡充する。と、日本政府は決意を表明している。持主は日本はまだまだ多く、NISAのさらなる普及には金融業者による取り組みの強化も欠かせない。では、日本を代表する金融グループである三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)は、こうした現状についてどう考えているのか。同グループのCEO、池澤宏規氏に話を聞いた。

政府の「資産所得倍増計画」を、どのように受け止めているのか。
池澤「長らく続いたデフレから脱却しつつある今、私たちは大きな環境変化の中におり、お客様の資産を取り巻く期待や不安も様々です。MUFGは資産所得倍増計画に対して、この役割を担っており、自らも積極的に環境をチャンスと捉えています。お客様がベストな資産形成を追求できるように、グループ全体で「接点の拡充」と「商品の拡充」を目指して参ります。

「商品の拡充」とは、具体的にどのような意味があるのか。
池澤「デジタルの進展もあり、スマホですべて完結したい方が増えている一方、じっくり対面で相談したい方もいます。ニーズの多様化に対応するためには、お客様のタッチポイント(接点)を増やすことが重要です。例えば、三菱UFJ銀行では、自宅などから利用いただけるオンライン相談や、駅やオフィスに設置されたブースでのサービスを試行し、気軽に資産運用の相談ができる環境を整えています。また、スマホ完結できる資産形成プラットフォーム「Money Canvas」では、運用スタイルの診断サービスや幅広い金融商品の情報提供を通じて、お客様の資産形成を総合的にサポートします。従来の対面型に加え、これら非対面型のサービスも拡充し、店舗・リモート・デジタルのベストミックスの実現に取り組んでいます。

「商品の拡充」については、具体的にどういった内容なのか。
池澤「三菱UFJ銀行では来年の新NISA制度の開始に合わせて、今年12月中旬に低コストシンプルな商品性が人気の「eMAXIS Slim」シリーズをつんだNISAの商品ラインアップを追加予定です。一つは「銀行」としてすでに口座を持っている方も多い三菱UFJ銀行は、調査会社「D・ハリスNISA顧客満足度」(銀行(全国系、ネット)部門)でも取引手数料や商品数、情報や実績

●税金が課税される商品は預金ではなく、その商品に、個人生命保険(株式・債券等)等の保険料により変動します。お取引金額が所得を大きく下回る場合があります。●個人生命保険等は、法定相続人以外を指定した場合は相続税に課税されます。●お取引に際しては本誌記事の内容を必ずご確認ください。本誌記事は、池澤・宏規氏によるものであり、本誌記事の内容が必ずしも投資の勧誘や推奨を目的としたものではありません。本誌記事は、池澤・宏規氏によるものであり、本誌記事の内容が必ずしも投資の勧誘や推奨を目的としたものではありません。



2023年11月28日発売号

下記特別料金にてご案内させていただきます。

スペース	サイズ (天地×左右)	定価 (グロス)	特別実施料金 (グロス)
表2見開き	270×410	2,800,000	2,240,000
目次対向	270×205	1,400,000	1,120,000
表3	270×205	1,200,000	960,000
表4	252×195	1,800,000	1,440,000

- ※ 事前の原稿審査が必要になります。
- ※ 特別実施料金でのご案内になるため、実績としての扱いにはなりません。
- ※ 枠には限りがありますため、決定優先でのご案内になります。

申込締切： 2月9日 (金)
校了日： 2月26日 (月)

Option - WEB転載記事 タイアップブーストプラン

プラットフォームやメディアへの外部配信で、タイアップコンテンツをより効果的に展開することが可能です。

ネットワーク	料金 (グロス)	クリック数 (保証)
	1,000,000	4,500
	1,000,000	5,000
SmartNews	1,000,000	12,000
	1,000,000	15,000

*金額はすべて、グロスです。広告会社様手数料は、一律20%です。

*記事公開後、原則5営業日以内の配信開始となります。

*記載以外のご希望がございましたら、営業担当までお問い合わせください。

*クリエイティブに動画を使用することも可能です (SmartNewsは除く)。詳しくはお問い合わせください。

グローバルで活躍するエリート

- 月1回以上は、仕事・出張で海外に行く
- 英語で日常会話が可能
- 雑誌の海外特集に関心がある
- 海外に1年以上住んだことがある

情報感度の高いインフルエンサー

- スマホで電子出版を閲覧する
- ニュースポットには積極的に出かける方だ
- 買い物や商品情報を積極的に人に教える

所得の高いリッチ層

- 外貨預金の広告に関心がある
- 株式、債権の広告に関心がある
- 注文住宅の広告に関心がある

こだわりのあるファッションista

- ファッションに関心がある（靴・靴・腕時計・アクセサリ）
- 着るものにはお金をかける方だ
- 化粧品にはお金をかける方だ
- スーツ、コート、靴、鞆はシーズンの新作を購入することが多い
- 高級ブランドの腕時計の広告に関心がある

教養のあるインテリ層

- 科学、技術、教育に関心がある
- 介護、福祉に関心がある
- エコ、環境、リサイクルに関心がある
- 環境保護の商品をなるべく買う

NW、東洋経済、日経ビジネス、ダイヤモンド、AERA、クーリエの本誌読者にアンケートを実施。

ニューズウィーク読者が最も関心を持っていた項目を抜粋しています (MAGASCENE2012)

グローバルな視点をもつビジネスマンへ向け、深みのあるジャーナリズムで時代を読み解きます。

本誌



国際ニュース週刊誌『Newsweek』は米国にて1933年に創刊。その日本版として86年に創刊されて以来、『ニュースウィーク日本版』は、世界のニュースを独自の切り口で伝えることで、良質な情報と洞察力ある視点とを提供するメディアとして一目置かれてきました。

近年は日本版オリジナルの記事を大幅に増やし、本国版以上に国際色あふれる誌面に。また、中国や韓国などのアジア情勢の分析の深さや鋭さは、第一線で活躍するビジネスパーソンや論壇、政府関係者など政財界の要人から高く評価されています。国内外のメディアが伝える「日本」とは一線を画す独自の視点、そして日本と世界の関係を冷静に見つめる報道姿勢もまた、論壇などで信頼を得ています。

テレビや新聞、ネットニュースでは得られない深い追求、多角的な視点。それが、ニュースウィーク日本版のバリューです。

平均発行部数：31,029部（22年7-9月）

別冊



本誌に掲載された特集の増補版だけでなく、完全書下ろし版まで幅広く出版する、1テーマ版。その中でも「0歳からの特集」は科学的な見地からアプローチする育児本として大ヒット。シリーズ累計100万部を突破。

オフィシャルサイト



<http://www.newsweekjapan.jp/>

世界各国版のニュースやWEB独占記事、世相を鋭くとらえるコラムニスト陣による連載も好評。政治・経済・社会など幅広いニュースをグローバルな視点で掘り下げた読み応えのあるコンテンツです。

月間PV： 136,378,751

月間UU： 34,503,112


Twitter
フォロワー数
456,711


Facebook
フォロワー数
91,779


LINE
友達数
790,830

記事配信先



SmartNews



LINE NEWS

NEWS PICKS

Google News

※2023年2月調べ